

〈訓練パッケージの全体像〉

受講対象者の属性		社内でDX化を推進する立場にあるが、それに必要な、ICT、AI、IoTなどの新しい技術を活用するための知識やスキルを備えているとは言えない方。又、経営プロセス全体の知識が不十分な方。
受講対象者が直面している課題		社内での業務上の知識や人脈はあるが、今後の会社経営に不可欠なDX活用、及び経営プロセスに関する知識やスキルが乏しいため、自社の生産性向上を目的とした業務改善や経営革新に活かせない。
訓練概要		上記の課題を持った管理者が、DX推進に必要な基礎知識、事例や活用方法、経営プロセス等を幅広く、又実践的に学ぶ。
講座の新規性	既存訓練の課題	DXに関する講座は多数あるが、短時間で一般的又は部分的な知識習得のための講座がほとんどで、実際どのように業務に生かしていったらよいか分からないのが現状である。又、管理者としての横断的スキルも学び、DX推進管理職としての総合力を身に付ける講座もほとんどない。
	本訓練での試み	DXの活用スキルや俯瞰思考、組織管理等管理職に必要な横断的スキルと経営プロセスへのDX推進を総合的に習得することにより、実際に自社の業務改善や業務革新に活かすことを目標とする。又、講座は全て体面でもの実施とし、各科目の演習でAIや独自開発のチェックシートを活用したり、DX事例の説明や演習時間のウエイトを高めることにより、実践的習得度の向上を図る。グループワークや「企画書」の作成、プレゼンの機会を設け、受講者同士の情報交換や相乗効果も高める。
カリキュラム		① 俯瞰思考（6 h） ② D X 基礎知識（14 h） ③ 業務効率化手法（12 h） ④ 管理者概論（6 h） ⑤ 戦略（8 h） ⑥ 開発（商品企画/製品設計・工程設計）（16 h） ⑦ 製造（20 h） ⑧ 販売（6 h） ⑨ 企画提案書作成（16 h） ⑩ 成果発表（8 h）

〈訓練パッケージの流れ〉

募集フェーズ
＜募集方法＞ ・チラシ作成（R6.1） ・弊社HP掲載（R6.2～） ・募集案内動画作成・公開（R6.3～5） ・訪問営業（R6.4～5） ・広報誌記載（R6.1、R6.5） ・メール送信（R6.4） ＜工夫点＞ ・第1回試行時は、DM、メール配信、若干の電話での営業を行ったが、結果は19名での開講となった。 ・第2回試行時は、広報誌やHP掲載、メール送信等だけではなく、案内動画の作成や訪問営業を中心に募集活動を行った。内容等を詳細に説明する機会が多くなったことにより、講座の主旨が伝わり、40名の申込に繋がった。



訓練フェーズ
＜訓練方法＞ ・訓練期間：R6.6.7～R7.1.24 全16回（月2回、隔週で実施） ・訓練時間：1日6時間又は8時間 合計112時間 ・訓練体制：講師5名、運営スタッフ2名 ・会場：弊社グループ企業の教室（50名程度収容） ・受講環境：PC受講者1名に1台貸出、ネット環境有（全員同時接続可能） ＜工夫点＞ ・試行1は主要6科目に絞り、時間も短縮したため、演習やグループワーク、作成、発表等の時間があまり取れなかった。 ・試行2はAIを活用した演習、グループワークや個人ワーク、DX活用事例の説明、企画書作成や成果発表のウエイトを高め、実践的習得度の向上を図った。

〈試行結果〉

試行時期	2024年6月～2025年1月	試行エリア	群馬県
受講者数等	受講定員： 3 0 名 受講者数： 3 2 名 修了者数： 2 1 名		
結果に対する評価			
・「仕上がり像」への到達目標の達成率は80%となり、目標は達成できたと判断できる。 ・募集人数の目標30名は達成でき、32名で開講したが、途中辞退者が想定より多く、最終の受講者数は25名となった。原因としては、試行講座で受講料が無料のため、業務を優先する傾向があった。又、募集の段階で、会社や参加者本人への説明と意思確認をきちんとできていないケースがあったことは反省点である。			
効果が得られた施策とその要因			
・募集については、広くチラシ配布やHPでのピーアールに加え、個別の訪問営業をメインにすることにより、詳細の内容や主旨をご理解いただいたことが申込みに繋がった。 ・各科目の演習でAIを活用することにより、幅広い情報収集と分析や作業、作成の効率化が実感できたと考える。 ・管理職に必要な横断的スキルと経営プロセスへのDX推進を総合的に学んだが、受講者が多くの分野に興味を持ち、習得度も高いので、当講座の「多くの知の引出を提供」という1つの目的は達成できたと判断できる。 ・習得したスキルのまとめとして「企画書」の作成・成果発表の機会を設けたが、「企画構想力」「資料作成力」「プレゼン力」の向上と、緊張感や達成感、受講者同士の相乗効果を高めることに役立った。成果発表の評価は全員高評価で、受講者からの評価も非常に高かった。 ・現状把握のために独自に開発したチェックシートを活用することにより、「課題抽出⇒目標設定⇒課題達成手段の検討」へ繋げることが効果的に行えたと考える。 ・演習用のテンプレートや記入事例を活用することにより、演習課題作成への理解を深め、効率的なスキル向上に繋げることができた。			

〈今後の訓練手法活用に向けて〉

今後の課題及び改善策
《募集》 ・募集人数については目標を達成することができたが、途中辞退者が想定より多かったため、次回は募集の段階で、会社や参加者本人への説明と意思確認をきちんと行う。 《訓練》 ・各科目で事例紹介を行ったが、もっと紹介してほしいとの要望が多かったため、より具体的なDX活用事例、中小企業の成功事例、多業種の事例等の説明をできる限り増やし、実践力の向上を図る。 ・特に「製品設計・工程設計・製造」科目でDXのウエイトをより高めてほしいとの要望が多かったため、来年度はどの企業にも共通の情報の一元化と技術伝承のDXを重点に習得するカリキュラムに変更する。 ・欠席の場合、テキストだけではなかなか習得が難しい部分があるので、オンライン受講や動画受講も検討していきたい。 ・来年度再構築した部分は、内容を大きく4つに層別し、重複部分をなくし、限られた時間の中で、できる限り習得度を上げるよう工夫した。又全講座参加を基本とするが、業種等により要望があれば層別毎に選択受講も可能にしたい。